P2-040

地域で生活する慢性疾患の子どもへの就学前後の支援の現状と課題

藤好 貴子、益守 かづき

久留米大学　医学部　看護学科

【目的】慢性疾患の子どもの生活の場は、成長発達とともに家庭から乳幼児を対象とした保育や教育の施設、小学校と変化する。中でも、小学校への就学という機会は、療養中の子どもと家族にとって大きな環境の変化である。就学に関する支援は市町村により就学相談会などが行われているが、療養に関しては幼児期からの就学準備と環境の変化から、子どもへの支援が途切れる危険性が指摘されているため、具体的な対応の検討が急務である。そこで本研究では、小学校および特別支援学校小学部の管理職・教諭・養護教諭・栄養教諭へのインタビューより、地域で慢性疾患療養中の子どもへの小学校の入学前後の支援の現状と課題を明らかにすることを目的とした。

【方法】対象は小学校及び特別支援学校小学部に入学する慢性疾患の子どもへ、過去5年以内に入学前後の支援や対応を行った経験がある管理職、教諭、養護教諭、栄養教諭。ここでの慢性疾患の子どもとは、小児慢性特定疾病対策の対象者など慢性的に治療・療養が必要な子どもや、入学時に学校生活管理指導表が提出されている子どもとした。インタビューガイドを基に半構造化インタビューを実施し、分析は質的記述的研究の分析手法に準じて実施した。

【倫理的配慮】本研究の目的・方法・研究参加の自由・同意の撤回・プライバシーの保護について説明した。本研究は久留米大学倫理委員会の承認を得て行った。

【結果】小学校および特別支援学校小学部の管理職1名、教諭2名、養護教諭3名、栄養教諭1名より協力を得た。慢性疾患を抱える子どもの入学前後の支援として、【前年度から年明けの学校説明会の時期】【学校説明会後から入学式の時期】【前年度から入学前まで通した時期】【入学式から混乱した1年生前半の時期】【落ち着いてきた1年生後半の時期】【入学後1年間通した時期】別に、学校生活への適応を促進するように支援を行っていた。

【考察】生活環境が大きく変化する就学児自身が自分の病気体験を知覚し、症状マネジメントに取り組めるよう援助することが子どもの社会化を促進する。慢性疾患を抱える子どもが小学校や特別支援学校へ就学する過程において、時期を考慮した支援は、子どもが自分の病気と向き合いながら社会化するために不可欠であると考える。そのためには家庭－医療機関－小学校の協働を組み込み、子どもが症状マネジメントを主体的に試みることができる支援を行う必要がある。

P2-041

子供たちの就園、就学に向けて多職種連携と外来看護師の役割

久保村 仁美、渡辺 春海、油淺 真紀子、西村 伊吹、高梨 都、森 輝美

鳥取大学医学部附属病院

【目的】近年小児医療の発展に伴い、A大学病院ではNICUを退院し医療的ケアを必要とする子供たちが増加している。今回、医療的ケアを必要としている子供の就園、就学に向け、小児科外来看護師が医師、社会福祉士、退院支援専任看護師、院外の関係者と連携した。就園、就学に向けた多職種との関わりを通して、多職種から外来看護師に求められる役割が明確になり、今後の支援内容や多職種連携の関わりについて新たな改善策が明確となったので報告する。

【方法】2019年度に就園、就学に向けて地域支援者と関係者会議を実施したA大学病院患児3名の看護記録を振り返った。院内の多職種からの意見をまとめ、今後の支援内容を明らかにした。

【倫理的配慮】A病院看護部で本報告における倫理的問題はないと承認を得た。

【結果】2019年度より小児科外来では、就園、就学後も医療的ケアを必要とする患児の受診前に、医師、社会福祉士、退院支援専任看護師、小児科外来看護師でカンファレンスを定期的に開催している。カンファレンスでは、在宅生活、就園や就学における問題点の抽出、情報共有を目的に話し合い病院から地域へつなげる情報の共有を行っている。地域関係者会議の開催前に、外来看護師が必要となる情報や、問題点を院内外関係者と情報を共有し、会議でより具体的な話し合いが行えるように連携を密に強化した。外来看護師が地域と連携を強化する上で、問題となる内容としては、自宅の生活や集団生活の中で親と教育関係者間にケアの認識の違いがある、保育園と小学校では医療的ケアの行える範囲が異なっているという現状が明らかになった。定期的なカンファレンスの実施、外来看護師が実際に地域関係者と情報共有を行った事に対して多職種から「保護者だけの情報ではなく、地域関係者から情報を得る事で診療時に患者・家族へ応対しやすくなった」、「外来看護師が親子と接し不安や課題、喜びを感じることは、院内外の関係者と連携する上で正確な情報を伝える事ができる」などの意見を得ることができた。外来看護師が地域や家族との連携をする事で関係者、家族をつなぐという役割が求められるということが明確になった。

【考察】今回は院内の多職種から得た意見であった。今後、地域関係者や保護者の意見を反映させ、外来看護師が中心となり家族と地域支援者の連携をより深められる支援の方法を構築させていくことが必要である。

Presented by Medical*Online